

高円寺地域の小中一貫校開校延期発表についての申し入れ

杉並区長 田中 良 殿

2017年12月27日
日本共産党杉並区議団

杉並区は11月9日、区ホームページにおいて「(仮称)高円寺学園の開校時期を延期します」との表題で、平成31年4月に開校予定だった高円寺地域の小中一貫校の開校時期を1年延期することを発表しました。

その理由について「工事妨害があり、工期内に工事を完了することができない」としています。これは、工事遅延の全ての責任が近隣住民の抗議行動にあると主張していることであり、断じて容認できません。

この間、区民に開示された情報によれば、本来1月末に行われるはずであった既製杭の発注や環七通りの歩道の切り下げの申請が、5月上旬に延期されていたことが明らかになっています。同時に議会での答弁でも建築確認が3ヶ月遅れたことを区は認めています。

これら以外にも今秋の長雨や地下水の流出(住民の目撃証言有り)など工事が遅延する原因は様々指摘されていますが、区はそのすべてを否定することができていません。このような段階で、工事遅延の全ての原因が住民の抗議行動にあると断定して発表することは不適切であり、事実と異なるものと指摘するものです。

加えて住民は、自分たちの抗議行動は高円寺中の門前でプラカードを掲げて立っているだけの極めて非暴力な行動であり、業者に対しては「区と話し合いの最中だから今は工事をしないでほしい」と要求しただけで妨害行為には当たらないと主張しています。わが党区議団のメンバーも抗議行動に参加しましたが、妨害行為と言えるものは一切ありませんでした。

学校づくりにおいて地域住民は要となる存在です。近隣住民を悪者に仕立て上げ、地域に分断を持ち込むような発表を区は行うべきではありません。今回の区の発表や説明には、児童生徒の保護者からも懸念の声が出されています。

以上の理由により、下記2点について強く申し入れます。

記

1. 地域に誤解と分断を生じさせる今回の発表を改め、訂正の発表を行うこと。
2. 住民と話し合いのテーブルに付き、住民から寄せられている疑問や懸念の声に真摯に向き合おうこと。

以上